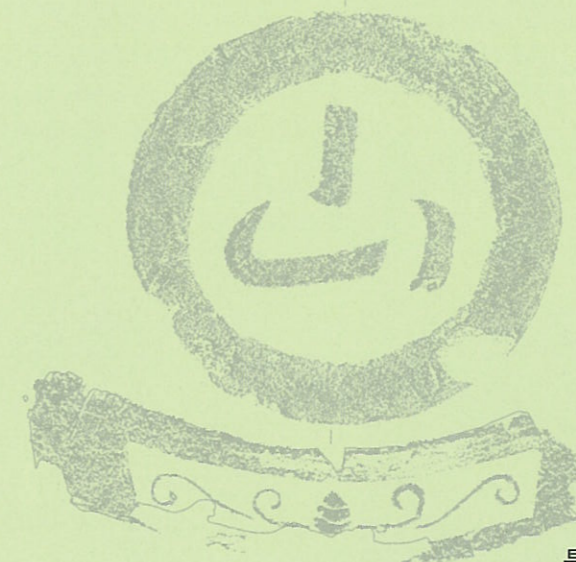


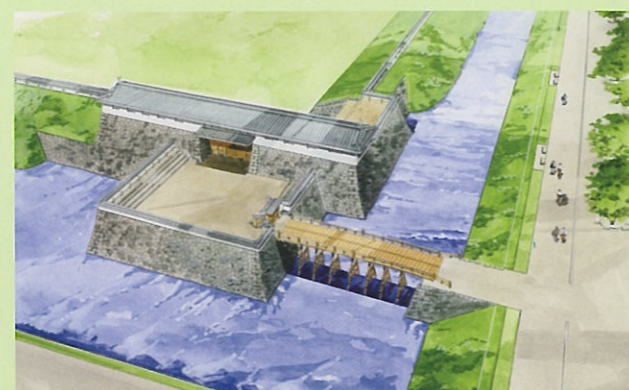
史跡 山形城跡

本丸堀跡・土塁跡 発掘調査

平成17～22年度



最上氏時代の瓦



本丸一文字門復原想像図



山形城本丸一文字門石垣・大手橋・本丸堀跡復原完成写真

山形城本丸一文字門の絵図
『出羽国山形城絵図（正保絵図）』<国立公文書館所蔵>

山形城跡の発掘調査

山形城跡は国史跡としてふさわしい復原整備をめざし、地下にねむる遺構・遺物の発掘調査をおこなっています。調査により史料に現れない発見や、建物跡を推定することができます。調査後は貴重な文化財を未来に残すために埋め戻して保護し、遺物は調査研究・展示などで活用につとめます。

年次	藩主	家紋	石高	前の領地	移転先
延宝五年(1687)	最上義光	三日月	五万石	宮城大崎から入部	子孫は最上氏を名乗り、最上義光は十一代目に当る
最上家親	三日月	五万石	関ヶ原の合戦で徳川家康に味方した最上義光の領地はこれまでの三倍余りに増加した	近江(滋賀県) 改易	
最上家信(義俊)	三日月	二十万石	陸奥岩城(福島県) 断絶	信濃高遠(長野県)	
鳥居忠政	三日月	二十万石	陸奥岩城(福島県)	信濃高遠(長野県)	
鳥居忠恒	三日月	二十万石	信濃高遠(長野県)	陸奥会津(福島県)	
保科正之	三日月	二十万石	信濃高遠(長野県)	陸奥会津(福島県)	
幕府領	三日月	二十万石	越前大野(福井県)	播磨姫路(兵庫県)	
(結城)松平直基	三日月	十五万石	越前大野(福井県)	播磨姫路(兵庫県)	
(奥平)松平忠弘	三日月	十五万石	播磨姫路(兵庫県)	下野宇都宮(栃木県)	
奥平昌能	三日月	十五万石	播磨姫路(兵庫県)	下野宇都宮(栃木県)	
奥平昌章	三日月	九万石	下野宇都宮(栃木県)	下野宇都宮(栃木県)	
堀田正仲	三日月	一〇万石	下野古河(茨城県)	陸奥福島(福島県)	
(結城)松平直矩	三日月	一〇万石	豊後田中(大分県)	陸奥白河(福島県)	
(奥平)松平忠雅	三日月	一〇万石	陸奥白河(福島県)	備後福山(広島県)	
堀田正虎	三日月	一〇万石	陸奥福島(福島県)	備後福山(広島県)	
堀田正春	三日月	一〇万石	陸奥福島(福島県)	下総佐倉(千葉県)	
堀田正亮	三日月	一〇万石	陸奥福島(福島県)	下総佐倉(千葉県)	
(大給)松平乗佑	三日月	六万石	下総佐倉(千葉県)	三河西尾(愛知県)	
幕府領	三日月	六万石	下総佐倉(千葉県)	三河西尾(愛知県)	
秋元涼朝	三日月	六万石	下総佐倉(千葉県)	上野館林(群馬県)	
秋元永朝	三日月	六万石	武蔵川越(埼玉県)	上野館林(群馬県)	
秋元久朝	三日月	六万石	武蔵川越(埼玉県)	上野館林(群馬県)	
秋元忠朝	三日月	六万石	武蔵川越(埼玉県)	上野館林(群馬県)	
水野忠精	三日月	五万石	遠江浜松(静岡県)	上野館林(群馬県)	
水野忠弘	三日月	五万石	遠江浜松(静岡県)	上野館林(群馬県)	

初代山形藩主の最上義光は、山形県の村山・最上・庄内地方と秋田県の由利地方とを領地とする五十七万石の大大名でした。山形城はこの山形藩の拠点です。最上氏改易の後鳥居氏・保科氏と幕府の信類の厚い大名が配置され、東北の軍事上の抑えとして、山形藩は重要視されました。しかし、それ以後は、藩としての石高は徐々に減っていき、また、譜代大名などが頻りに入れ替わるようになりました。最後の大名の水野氏の時は石高が五万石にまで減り、山形城の三の丸の一部は田畑として利用されるようになっていました。

山形藩の藩主



本丸一文字門石垣・本丸大手橋・本丸堀・土塁復原航空写真 (2011.8.2 撮影 南東から)

■お問い合わせ先■
〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号
山形市まちづくり推進部 公園緑地課
☎023 (641) 1212 (代)

■探しています！■
山形城は国史跡であり復原には歴史的資料の裏付けが必要です。山形市では山形城復原に関わる資料を探しています。お心当たりの方は左記までご連絡・ご協力をお願いいたします。



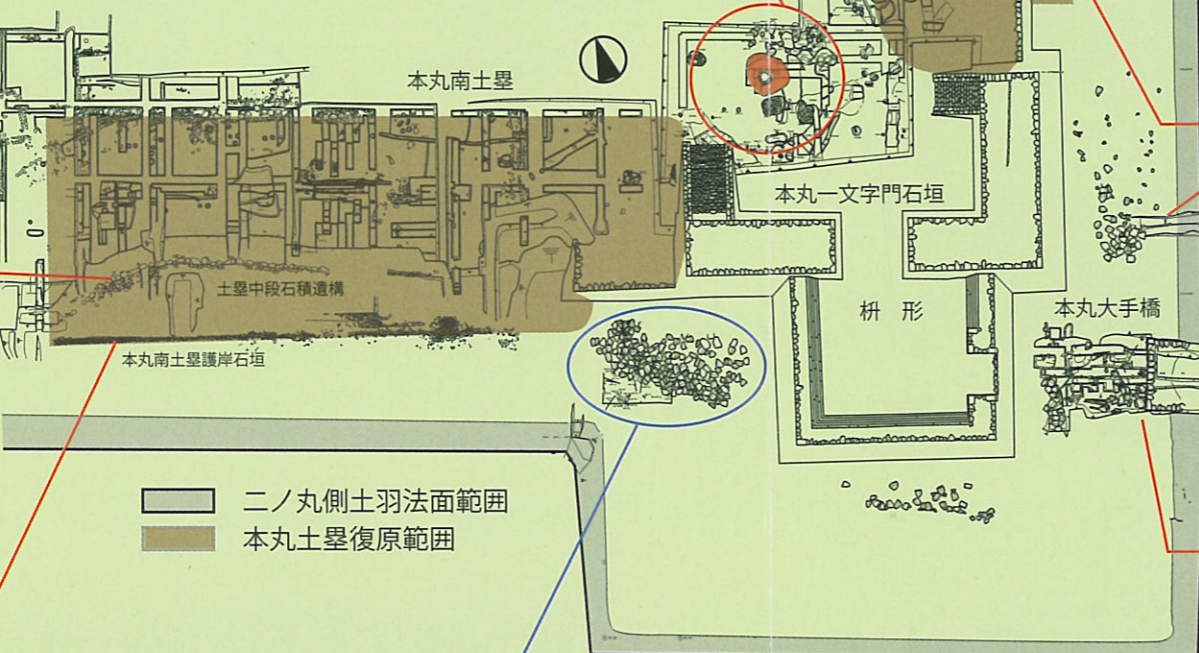
本丸南土塁検出の「土塁中段石積遺構」・「護岸石垣」
土塁の最下段には水堀から土塁をまもる玉石積みの護岸石垣があり、その上段には斜面にそって中段石積遺構が検出されました。



本丸の井戸跡(本丸一文字門)
一文字門に入った脇にありました。石組の井戸で周囲の掘り穴は約 5.4mの大きなものです。「鳥居氏」時代以後の時期につくられたものと考えられます。



土塁中段石積遺構 (本丸南土塁)
石は自然礫をもちい、長い面を横に配置した2段の石積みです。小礫による裏込めがあり、土留めの役割と考えられます。この石積は土塁築造により削られており「最上氏」時代の遺構と推測しています。



本丸出土金箔瓦(山文軒丸瓦・宝珠文軒平瓦)
本丸土塁跡より出土しました。どちらも黒瓦で最上氏時代の瓦です。豊臣・徳川幕政初期に使用を許可されたものと推定しています。



本丸東堀の裾で発見された多量の瓦



寛政四壬子歳
七月廿四日
作之
1792年

墨書銘木製部材
本丸大手橋二ノ丸側橋台下より出土しました。アカマツ製で墨書による完成年号が記されています。



本丸東堀の二ノ丸側斜面の調査状況



護岸石垣 (本丸南土塁)
石は自然礫で拳〜頭ほどの大きさの石を高さ約 1mに積み上げています。水堀の深さにあたり、二ノ丸堀にも現存します。部分的に石積みが前後二重となっていたり、崩れてなくなっている部分もあることから補修が繰り返されたと考えています。この石垣は土塁築造によりつくられたもので「鳥居氏」時代以後の遺構で幕末まであった石垣と考えています。



石垣のレーザー測量図
本丸南堀には、江戸時代に崩落したと考えられる石垣が多数発見されました。その広がりには20×10mにおよび、西側の檜台石垣の崩落が原因であると考えられます。また、これらの石垣は堀内に埋め立てられたものであることがわかりました。崩落の原因は不明ですが、絵図では江戸時代後半の「秋元氏」時代には崩れていたことが絵図からわかっています。

山形城の発掘調査で出土した遺物



鯨(赤瓦)



カスガイ



塗り下駄



丸ノミ



鍔(つば)